

～東海村の歴史や自然を紹介～

# 『ふるさと歴訪 第二集』を刊行しました！！

広報とうかいに連載してきた「ふるさと歴訪」(平成20年～29年度掲載)と「自然調査最前線!!」(平成27年～29年度掲載)の全153話を1冊にまとめた『ふるさと歴訪 第二集』を刊行しました。

東海村の歴史や自然についてさまざまな分野から執筆された読み応えのある内容に加え、A5サイズで手に取りやすい1冊となっています。図書館や各コミュニティセンターでご覧いただけるほか、下記の通り販売もしていますので、ぜひご利用ください。

販売窓口▼生涯学習課(役場行政棟4階)、 公立図書館

価格▼600円/冊

問い合わせ▼生涯学習課文化財・芸術文化担当(☎282-1711 内線1422)



ふるさと歴訪 ―自然を探して―

## タンポポの世界で起こっている異変

〔(仮称)歴史と未来の交流館〕展示監修委員

安嶋 隆

タンポポ(キク科)は春を代表する花で、スミレとともに日本人にとっては親しみのある植物の一つです。

植物図鑑等のタンポポ類の解説には在来種と外来種があり、見分け方としては花期に総苞片(写真1)が反り返っていないのが外来種で、反り返っていないのが在来種であると書かれています。

また、在来種は開花時期が春の短い期間に限られ、生育場所が減少していることもよく知られています。

これまでの村内の植物調査では、在来種にカントウタンポポやエゾタンポポ、外来種にセイヨウタンポポが記録されています。

ところが改めて村内のタンポポを詳しく観察してみると、総苞片の形態に変異が見られることが分かりました(写真2)。①はカントウタンポポ、



⑥はセイヨウタンポポですが、②～⑤の総苞片の状態は中間的で、カントウ、セイヨウのいずれにも該当しません。外見から単純には判別できませんが、雑種タンポポと想われます。そのほか、茎の高さが低く、花が大きいことなども特徴です。村内の道端、あぜ道、空き地などに見られる黄色の花の群生地はほとんどがこの雑種タンポポと思われる。

タンポポ以外にも、我々の予想もしない自然の変化が起こっています。オオキンケイギクやアレチウリなどは、特定外来植物として駆除対策の必要性が話題になっています。

それ以上にタンポポの世界では、我々の知らない間に在来種と外来種が減少して、雑種タンポポという全く新しい集団が村内に広がっています。将来、雑種タンポポの駆除が話題になるかもしれません。

このように、身近な自然観察には植物の秘密を解き明かす多くのヒントが隠されています。